

令和 6 年 9 月 27 日現在

機関番号：34316

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2018～2023

課題番号：17KK0056

研究課題名（和文）Reconciliation: Treating Asia's Border Traumas with Traditional Medical Analogy

研究課題名（英文）Reconciliation: Treating Asia's Border Traumas with Traditional Medical Analogy

研究代表者

陳 慶昌（Chen, Ching-Chang）

龍谷大学・国際学部・教授

研究者番号：50569788

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,400,000円

渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：東アジアにおける長年の紛争は、ウェストファリアの近代性に伴う二項対立的なレンズを通して再生産されてきた。本研究は、「ポリティカル・ヒーリング」としての独創的かつ非二項対立的なアプローチを開発するものである。アジア哲学、宗教学、政治学、ポストコロニアル研究などの観点から東洋医学の思想と実践をケーススタディとして取り上げる。研究メンバーは、このような紛争を共有された政治的身体の病気として理解し、治療できると提案している。研究成果はThird World Quarterly誌（2022年Impact Factor 2.0）の45巻6号として出版され、研究代表者が9本の論文のうち3本を執筆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 本研究は、東洋医学の思想と実践を活用した国際関係論・紛争解決研究への世界初の体系的貢献である。また、同じ大学から複数の研究者がSSCI学術誌の特集号の客員編集者および執筆者を務めるのは、日本の国際政治学界では珍しい。
2. 本特集号に掲載された論文は、大乘仏教の医療実践、道教の陰陽弁証法、気の流れの分析、五行思想など東洋医学の知見から得た新しい発想で、東アジアにおける国際関係・紛争解決研究に貢献している。
3. 研究成果は、米国の安全保障に関する言説、朝鮮半島における平和、日韓関係、尖閣諸島問題、中国と香港や台湾との対立や衝突などを再考する上で重要な政策的意味を持つ。

研究成果の概要（英文）：Longstanding conflicts in East Asia have been reproduced through the dichotomous lens of Westphalian modernity. This research develops an original and non-dichotomous approach as "political healing." It engages with East Asian medical thought and practice through various case studies from the perspectives of Asian philosophy, religious studies, political science, and postcolonial studies. The research members propose that the aforementioned conflicts can be understood and treated as diseases of a shared body politic. The research findings are published as a special issue (volume 45, issue 6) of Third World Quarterly (2022 Impact Factor 2.0). The principal investigator serves as its guest editor and contributes to three of the nine articles.

研究分野：国際関係論

キーワード：ポリティカル・ヒーリング 東洋医学 国際関係論 東アジア 紛争解決

出典：滑寿『十四経發揮』（Wikipedia Public Domain）

東洋医学では、気や血の流れを理解するために経絡を想像する。本研究では、「政治的身体」の「病氣」として紛争を理解するために、創造的な想像力が必要であることが示している。これは、鍼治療の道筋やツボを可視化するように、概念を明確にするためのものである。

4. 研究成果

研究成果は *Third World Quarterly* 誌 (Taylor & Francis) の [特集号](#) (45 巻 6 号) として出版され、陳が客員編集長を務めている。*Third World Quarterly* は、開発学と国際関係論の分野で権威的な国際学術誌である (2022 年 Impact Factor 2.0)。2024 年 4 月下旬の時点で、特集号が 19,000 以上のオンライン閲覧数を獲得していることは、本研究成果の質の高さと影響力の大きさを示している。以下、日本を拠点とする研究メンバーによる掲載論文 (9 本の論文のうち 5 本) を簡単に紹介する。

冒頭の陳、Astrid H.M. Nordin (英国キングス・カレッジ・ロンドン)、Peter Karl Mayer (台湾中国医薬大学) による [巻頭論文](#) は、「政治的癒し」とは何を意味するのか、なぜ東洋医学が政治的癒しのための実践的な「処方」を豊富に提供するのか、研究者はこの処方をどのように活用することができるのか、そして東アジアの国際関係はどのように癒すことができるのかを説明している。

清水耕介 (龍谷大学) と野呂靖 (龍谷大学) による [第 1 の論文](#) は、大乘仏教を引き合いに出し、国際関係論研究において、自律的主体の存在や、彼らが「他者」とどのように関係するかといった、通常は時間的に直線的であるような、既成のメタ理論的前提を問い直すものである。彼らは主体/医者と客体/患者の垣根を曖昧にする大乘仏教の医療実践から学び、国際関係学者は、自らが向き合う国際問題と自己との間の相互構築を存在論的、空間的、時間的に検討しなければならないと主張する。

「五行」を組織化され、相互に関連する象徴の集合として考える五行理論に影響を受けた山本アンドレイ (龍谷大学) の [第 4 の論文](#) は、二項対立を前提とした一般的な紛争解決関連の文献における感情の役割に疑問を投げかけている。本論文は、感情を本質的に善か悪かではなく、むしろ過剰か不足かとして捉える方が有益であると主張する。従って、北朝鮮における感情の不均衡を癒すアプローチとして、カウンター・エモーションが提案されている。

Nina C. Krickel-Choi (オーストラリア国際問題研究所)、陳、Alexander Bukh (アラブ首長国連邦ラバダン・アカデミー) による [第 6 の論文](#) は、これまで存在論的安全保障学の知見から排他的なウェストファリア的「国家身体」の一部としてみなされていた尖閣諸島に対して、なぜ紛争国にとって存在論的に重要なものとなりうるのか、そしてなぜ紛争が永続するのかといった一連の疑問を東洋医学の知見から捉え直す。生物医学における解剖学のように尖閣諸島を保護・管理すべき個の実体とみなせば、本問題には突破口がないと結論付けられるが、東洋医学の知見を用いれば本問題の存在論的な突破口を見出すことができる。言い換えれば、もし尖閣諸島が東洋医学的な意味での臓器の機能に類似していれば、それは他の身体部分との関係性の中に組み込まれる。さらに、それが生命を維持する機能を生み出しているのであれば、尖閣諸島をめぐる機能的協力を促進することは、「日本・中国・台湾の身体」の健康に資することになる。

陳柏宇 (新潟県立大学) と陳による [第 7 の論文](#) は、仏教思想に着想を得た「間存在」(インタービーイング) の概念と東洋医学思想を応用することで、ウェストファリア近代性の二項対立的な言語を再生産することなく、中台関係の再考が可能であると論じている。アンバランスな「中台の体」は、「食料」(台湾海峡を越えた交流) の増加をより多くの「血」(「我々らしさ」または善意) に変えることに失敗しているが、一部の仏教団体の活動は「血作り」に資するものであり、ウェストファリア的な統一/独立の二分法を不安定化させる可能性は注目に値するという。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Chen Ching-Chang, Nordin Astrid H. M., Mayer Peter Karl	4. 巻 45
2. 論文標題 Political healing in East Asian international relations: what, why and how	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Third World Quarterly	6. 最初と最後の頁 1019 ~ 1034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01436597.2024.2322087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Chen Ching-Chang	4. 巻 91
2. 論文標題 Dynamics of Democracy in Taiwan: The Ma Ying-jeou Years	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The China Journal	6. 最初と最後の頁 104 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/727303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Agarwal Amya, Chen Ching-Chang, Choi Shine, Cruz Frances Antoinette, Hoo Chiew-Ping, Watanabe Atsuko	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 Forum: Searching for a Global Solidarity: A Collective Auto-Ethnography of Early-Career Women Researchers in the Asia-Pacific	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Studies Perspectives	6. 最初と最後の頁 88 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/isp/ekac007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Krickel-Choi Nina C., Chen Ching-Chang, Bukh Alexander	4. 巻 45
2. 論文標題 Embodying the state differently in a Westphalian world: an ontological exit for the Diaoyu/Senkaku Islands dispute	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Third World Quarterly	6. 最初と最後の頁 1122 ~ 1140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01436597.2022.2152789	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Krickel-Choi Nina C., Chen Ching-Chang	4. 巻 37
2. 論文標題 Defending the islands, defending the self: Taiwan, sovereignty and the origin of the Diaoyu/Senkaku Islands dispute as ontological security-seeking	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Pacific Review	6. 最初と最後の頁 301 ~ 327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09512748.2023.2166978	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Chen Boyu, Chen Ching-Chang	4. 巻 45
2. 論文標題 Rethinking China-Taiwan relations as a yin-yang imbalance: political healing by Taiwanese Buddhist organisations	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Third World Quarterly	6. 最初と最後の頁 1141 ~ 1158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01436597.2021.1960158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chen Ching-Chang	4. 巻 37
2. 論文標題 These islands are ours: the social constructions of territorial disputes in Northeast Asia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Borderlands Studies	6. 最初と最後の頁 657 ~ 658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08865655.2022.2046484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ching-Chang Chen and Kosuke Shimizu	4. 巻 32
2. 論文標題 International relations from the margins: the Westphalian meta-narratives and counter-narratives in Okinawa-Taiwan relations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cambridge Review of International Affairs	6. 最初と最後の頁 521-540
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09557571.2019.1622082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ching-Chang Chen	4. 巻 -
2. 論文標題 Sinophone and Japanese International Relations Theory	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oxford Bibliographies in International Relations	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/OBO/9780199743292-0271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wan-Ping Lin and Ching-Chang Chen	4. 巻 -
2. 論文標題 Reflections on Confucian Cosmology and the Chinese School of IR	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 E-International Relations	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ching-Chang Chen	4. 巻 22
2. 論文標題 Danger, Development and Legitimacy in East Asian Maritime Politics: Securing the Seas, Securing the State	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science Japan Journal	6. 最初と最後の頁 179-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ssjj/jyy045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 19件)

1. 発表者名 Ching-Chang Chen & Nina C. Krickel-Choi
2. 発表標題 Re-imagining IR's biomedical foundations: an intervention by East Asian medicine
3. 学会等名 European International Studies Association annual conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Before the 'Indo-Pacific': The Taiwan Expedition and the birth of Imperial Japan as an East Asian maritime power
3. 学会等名 Stiftung Wissenschaft und Politik Symposium on "The Law of the Sea and the Social Construction of Oceanic Space: 'Indo-Pacific' and Other Maritime Geopolitical Discourses (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 How to construct more resilient political communities? An East Asian medical approach to rethinking the state body
3. 学会等名 International Studies Association - Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 'Becoming normal': Making sense of Japan's security policy transformation in the wake of the Russo-Ukrainian War
3. 学会等名 East-West Forum, National Chung Hsing University, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Why is relationality inherently embodied? An East Asian medical approach to theorizing relations
3. 学会等名 Korean Political Science Association World Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Chen, Ching-Chang
2 . 発表標題 IR scholars in Japan as Homo Academicus
3 . 学会等名 Collaborative Workshop with the Critical Approaches to Political Science Lab, Department of Political Science, Yonsei University. Global Affairs Research Center, Ryukoku University, Kyoto. January 27
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Chen, Ching-Chang
2 . 発表標題 Introducing political healing to/in/for more resilient East Asian international relations
3 . 学会等名 Workshop on New Perspectives for International Relations: Crisis, Conflict, and Pluriversal World. Kanazawa University, Kanazawa. February 3 (招待講演)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Chen Ching-Chang
2 . 発表標題 “When does the subaltern not want to speak? A preliminary postcolonial inquiry into the state of Taiwanese political science.”
3 . 学会等名 International Studies Association Annual Convention (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Chen Ching-Chang
2 . 発表標題 The Marginalized Can (and Should) Speak (Or, Why the Mudanshe/Botansha Incident Has Not Turn into Another “History Issue” in East Asia)
3 . 学会等名 International Political Science Association World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Chen Ching-Chang
2. 発表標題 “ Becoming Taiwanese ” : Pandemic Control as Nation-Building amid Heightened US-China Strategic Rivalry
3. 学会等名 International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chen Ching-Chang, Yamamoto Andrei
2. 発表標題 “ ‘ Know your proper place ’ : Orientalizing North Korea in American and Chinese non-proliferation discourses. ”
3. 学会等名 10th Eurasian Peace Science Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen Ching-Chang
2. 発表標題 Reporting Taiwan, Rediscovering Japan? Representations of Taiwan by Conservative Japanese Media as an Identity Strategy
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen Ching-Chang
2. 発表標題 IR Scholars in Japan as Homo Academicus
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 The Future of Taiwan in the Age of US-China Hegemonic Competition
3. 学会等名 165th Diplomatic Roundtable, Japan Forum on International Relations (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 When Does the Subaltern Not Want to Speak? A Preliminary Postcolonial Inquiry into the State of Taiwanese Political Science
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 If Not a Non-Western IR, What Can Be Done? China as a Method in Japanese IR Knowledge Production
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 The Diaoyu/Senkaku Islands Dispute as a Case of Leukemia and Its Possible Treatment
3. 学会等名 International Studies Association Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen and Andrei Malai
2. 発表標題 “ Know Your Proper Place ” : Orientalizing North Korea in American and Chinese Non-Proliferation Discourses
3. 学会等名 International Studies Association Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen and Kosuke Shimizu
2. 発表標題 International Relations from the margins: The Westphalian meta-narratives and counter-narratives in Okinawa-Taiwan relations
3. 学会等名 European International Studies Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Narrating East Asian International Relations from the Margins
3. 学会等名 Weatherhead East Asian Institute Event, Columbia University (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Political Healing in East Asian International Relations
3. 学会等名 GLUE Brownbag Series, The New School (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 A Preliminary Inquiry into the Confucian Cosmology for Post-Human IR Theorizing
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention, San Fransisco (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Does (Un)Chineseness Matter? Taiwan's (Non-)Involvement in China's Maritime Disputes Reconsidered
3. 学会等名 FLACSO-ISA Joint International Conference, Quito, Ecuador (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 If Not a Non-Western IR, What Can Be Done? China as a Method in Japanese IR Knowledge Production
3. 学会等名 College of International Relations, Huaqiao University, Xiamen, China (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Crossing the Red Line? Rethinking the 'Broken' Chemical Weapons Taboo in the Second Sino-Japanese War
3. 学会等名 One Asia Lecture Series, National Chung Hsing University, Taichung, Taiwan (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Nagao and Ching-Chang Chen
2. 発表標題 Case-study of English as a Medium of Instruction (EMI) in Japan: The New Challenges and Implications for Language Teaching
3. 学会等名 6th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ching-Chang Chen
2. 発表標題 If Not a Non-Western IR, What Can Be Done? China as a Method in Japanese IR Knowledge Production
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention, Toronto (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Chih-yu Shih et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 286
3. 書名 China and International Theory: The Balance of Relationships	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>2023年度人間・科学・宗教総合研究センター研究交流会・開催レポート前編【研究部】 https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-14554.html 2022年度人間・科学・宗教総合研究センター研究交流会・開催レポート前編 https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-12463.html 東洋医学の思想をメタファーとして、紛争解決への新たなアプローチを提案する https://academic-doors-ryukoku.jp/interview/03 国際学部の清水教授と陳准教授が国際関係分野においてTop10%論文を3本保持 https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-9610.html Visiting Fellow Spotlight: Ching-Chang Chen https://newschoolinternationalaffairs.org/2020/02/06/visiting-fellow-spotlight-ching-chang-chen/ Narrating E Asian Int'l Relations from the Margins http://weai.columbia.edu/event/narrating-east-asian-international-relations-from-the-margins/ Eurasian Studies vol. 10 https://gioip.nchu.edu.tw/zh_tw/Admissions2/Eurasian/%E7%AC%AC%E5%8D%81%E6%9C%9F-54005770</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	パツハ ジョナサン (Bach Jonathan)	ニユースクール大学・Eugene Lang College of Liberal Arts・Professor	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	フクダ・パー サキコ (Fukuda-Parr Sakiko)	ニユースクール大学・Julien Studley Graduate Program in International Affairs・Professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Ryukoku Workshop on Political Healing	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 NCHU-Ryukoku Workshop on Non-Western International Relations	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	King's College London			
その他の国・地域	Academia Sinica	China Medical University	National Chung Hsing University	
アメリカ	St. Edward's University			
韓国	Yonsei University			
アラブ首長国連邦	Rabdan Academy			